平成 29 年 7 月 28 日

「田辺圏域医療と介護の連携を進める会」
第 10 回（通算第 89 回）定例会　会議録

◆日　時：平成 29 年 7 月 18 日（火）　PM7：00～8：50
◆場　所：田辺市民総合センター　1Ｆ　機能訓練室
◆出席者：　47　名

別紙のとおり

１．「田辺圏域医療と介護の連携を進める会」定例会について

【19：00～20：50】

19：00～　開会　初山先生

19：00～19：10　研修案内

19：10～19：20　私のしごとを知ってください
「ケアサポートえいと」

19：20～19：50　研修
「高齢精神障害者支援における地域連携ニーズについて」
～西牟婁圏域自立支援協議会　精神部会の取り組み～
講師：西牟婁圏域自立支援協議会
地域移行部会・精神部会
副会長　柳瀬　敏夫氏

19：50～20：20　意見交換（グループワーク）

20：20～20：50　発表とまとめ

20：50　閉　会

【高齢精神障害者支援】

・精神障害をめぐり支援課題
　①精神科医療の問題
　　精神科特例（ベッド数と看護師数）・社会的入院の解消・入院患者の高齢化（60 歳以上が約 7 割）・医師不足やスタッフ不足・精神科救急医療
　　⇒行政等への働きかけ
　②地域生活支援における問題
　　入院患者の地域移行を促進する法律
　　高齢や支援度の高い人が生活できる「地域資源」がない
　　⇒社会資源等へのニーズ調査の実施
・ニーズ調査結果より
　　コミュニケーションの取り方が難しい
　　障害の特性（病気・症状・体調変化など）の理解
　　症状出現時の対応の仕方の理解
・今後の方向性
　①地域でのネットワークづくり
　　行政・研修・個別の事例などの機会を活用
　②資源開発のための努力
　　生活資源づくりと高齢分野における受け入れ促進

【意見交換】

〇現状と課題

・精神科救急や外来の予約がとりにくい病院の課題が大きい。精神科訪問看護や往診等地域格差がある。制度面や予算的なこともあるので行政とのかかわりも重要。
・パーソナル障害の人の対応について勉強したい。また疾病特有の症状と対応の仕方などの勉強がしたい。多職種で勉強する機会が必要。
・支援者の経験によって、対応に差がある。日々の生活の中でかかわりをどう構築していくかはやらないとわからない。
・その人らしさや障害の特有のものは生活の中でしか理解しにくい
　⇒疾病としての対応力３割＋「ひと」としての関わり７割
・本人の生活を安定させるもの　→金銭面・環境面・社会資源・地域の理解
・生活を支援していくための関係者のネットワークは必須
・偏見や差別はまだ残っている。医療従事者でもスキル不足を感じることがある
　⇒啓発や相談窓口の周知
・年齢で制度が区別されるのは本人も周囲もとまどう
・「地域移行」ということを住民がどこまで理解しているか。浸透しているか
・薬の管理や見守り機能もあるので、移行する「在宅」としてサービス付き高齢者住宅も非常に有用
・社会資源として高齢分野の支援者の情報も活用できるので、連携は必要

⇒啓発や周知の重要性・多職種連携
大切なのは「日常生活の中でのひととしてのかかわり」

【次回の定例会】

→以下の日程で実施する。次回は第３火曜日がお盆なので第 4 火曜日に

日時：平成 29 年 8 月 22 日（火）　午後７時～
場所：田辺市民総センター　1F　機能訓練室
内容：講師：西牟婁圏域自立支援協議会　地域移行部会